

広報広聴研修を終えて



泉州南広域消防本部
消防司令 辻 宣貴

大阪市消防局における 受託研修レポート

大阪市消防局では、大阪市消防局受託研修実施要領に基づき、他消防本部から希望する職員を受け入れ、各課所において受託研修を実施しています。

ここでは、企画課（広報）で2週間の研修を受けた、辻 宣貴氏（泉州南広域消防本部消防司令）による研修レポートをご紹介します。

はじめに

泉州南広域消防本部では、令和6年度から広聴広報要綱を制定し業務に取り組んできましたが、先進的な取組や実践的な手法を学び、今後の業務に活かしたいと考えるようになり、広報広聴研修の受講を希望したところ、本研修の機会をいただくことになりました。令和7年8月の殉職事案に伴い、組織として非常に厳しい状況下にあるにもかかわらず、受託研修の受入れ要請に応じてくださった大阪市消防局企画部企画課の皆様への感謝を込めて、2週間の学びをご報告いたします。

住民との双方向コミュニケーションの重要性

今回の研修において、最も印象に残っているのは、「住民の声をどのように受け止め、行政としていかに向き合うか」という、広聴の本質に関する考え方でした。

住民から寄せられるご意見には、時として厳しい指摘や感情的な表現が含まれる場合もあります。しかし、それらは行政施策が住民生活の最前線に影響を与えている証であり、消防行政に対する期待の裏返しとも言えます。こうした声に対して形式的に応じるのではなく、背景事情や住民が置かれている状況に思いを巡らせ、丁寧に耳を傾ける姿勢が、住民との信頼関係の形成に不可欠で

あるとご指導いただきました。

また、住民一人ひとりの声だけでなく、地域団体や自治会、事業者団体などからの要望に対応することの重要性についても学びました。行政が十分に把握しきれない地域特有の課題や声を受け止めることは、自治体運営における貴重な財産であることを改めて認識しました。

住民の声を正確に受け止め、適切な部署と連携しながら解決に向けて取り組むためには、日頃から明確なフローや体制が整備されていることが重要であり、広聴業務が組織全体のパフォーマンス向上に直結することを学びました。

SNS・ウェブ媒体を活用した高度な情報発信

現代の情報環境では、SNSやウェブ媒体が住民の主要な情報源となりつつあり、行政における広報戦略の中核を担う重要なツールとなっています。今回の研修では、災害時のみならず平時におけるSNS活用のあり方まで、具体的かつ多角的なご指導をいただき、情報発信に対する考えが大きく変わりました。

近年ではメールを主としたウェブ媒体での「住民からの情報発信」が増加しており、行政による公式情報が住民の安心材料として強い影響力を持つことも学びました。SNS上でのコメントは、一つのご意見として参考にし、情報を整理し本質を見極

め、必要な対応につなげることが、信頼性の確保にとって重要であるという点も印象的でした。

災害時広報に求められる判断・責任・倫理

災害報道広報要領に関する講義は、今回の研修の中でも特に深い学びが得られる内容であり、災害時広報に携わる者として求められる判断・責任・倫理の重さを改めて強く認識しました。

災害発生直後は、情報が錯綜し、不確実な要素が多く含まれる極めて混乱した状況となります。そのような中で、どの情報を、どの段階で、どのような表現で発信するかという判断は、組織の信

頼性と住民の安全に直結する非常に重要な行為であると思います。

災害時広報においては、被災者のプライバシー保護はもとより、遺族や関係者の心情に十分配慮した表現を選択する姿勢が求められます。安否情報や被害状況に関する情報は、住民が強く関心を寄せる部分である一方、不用意な情報公開は個人の名誉や尊厳を傷つける恐れがあるため、公開範囲や表現についての慎重な判断が必要となります。そこで問われるのが、広報を担う者自身の「倫理観」であると、改めて考えさせられました。報道機関からの取材への対応についても、迅速かつ誠実でありながら、守るべき情報は確実に守るという姿勢が必要であることを改めて学びました。

実務に直結する多くの学び

今回の研修では、広報広聴業務において日常的に必要な実務スキルについて、具体的かつ体系的にご教授いただき、多くの実践的知見を得ることができました。

●プレスリリースの作成

文章構成、見出しの付け方、要点の整理方法、表現の平易性など、これまで自己流で取り組んでいた部分を改めて理論的に学びました。特に、読み手の視点に立ち「最初の一文で何を伝えるか」「どうすれば誤解の余地を取り除けるか」といった細部にまで気を配る姿勢は、広報文書全体の質を

左右するものであり、今後の実務に直結する重要な学びとなりました。

●記者からの問い合わせ対応

想定される質問事項への事前整理、回答に必要な根拠の明確化など、現場で役立つノウハウも丁寧にご教示いただきました。広報担当者は単に情報を届けるだけではなく、説明責任を果たすための調整役も担っていることを改めて認識し、その責務の重さを感じました。

●広報物のデザインや表現技法

「視線の流れを意識したレイアウト」「色彩の意味と心理効果」「アクセシビリティへの配慮」など、これまで深く考えてこなかったことも意識できるようになり、広報物が住民の行動や印象に直結することを改めて理解しました。

研修を終えての決意

このたびの2週間にわたる研修は、私にとって大きな財産となる経験であり、その学びの一つひとつが今後の職務における確固たる礎となるものと確信しております。

最後になりますが、今回の研修に際し、貴重な時間を割いて、温かいご指導と多大なるご配慮を賜りました大阪市消防局企画部企画課の皆様へ、改めて深甚なる感謝を申し上げます。この学びを胸に、今後もより一層精進し、消防行政の発展と住民の安全安心の確保に力を尽くしてまいります。

研修の概要

日程：11月4日（火）～11月14日（金）

内容

- 広報業務：消防広報の種類、プレスリリース要領、災害報道広報要領、オープン市役所、企画取材対応、大阪市のホームページ
- 運用体制、大阪市消防局における SNS 活用及び各課での取組（アプリなど）
- 広聴業務：広聴事務（市民の声・団体協議・苦情対応など）、大阪市消防局における広聴広報体制

住宅用火災警報器で歌おう♪

全国的に住宅火災件数と住宅火災による死者数は、住宅用火災警報器（以下「住警器」という。）の設置義務化がスタートした平成18年以降、減少傾向にあります。さらなる火災による死者数の低減を目指して取り組んでいかなければなりません！そこで、私たち「住宅用火災警報器設置・維持管理促進PRソング制作委員会（通称：住促P委）」では、本市にふさわしい住警器PRソングを作成するため、全国の消防本部で制作されている住警器PRソングを調べたところ、あるわあるわ、ということで……。

Y0!Y0! 付けよーY0!

今月は、倉敷市消防局の「住警器ラップ」をご紹介します。住宅用火災報知器設置プロモーションのために、倉敷市防火協会の協賛を受けて制作なされたんですって。

いざというとき火災の発生をいち早く知らせくれる火災警報器は、まさに家庭の守り人であるというメッセージを、リリックに伝えてくれるオリジナルのラップ。「消防職員たちの防火に対する熱い魂（ラップ&ダンス）にご注目ください。」とのことですよ♪



☆倉敷市消防局
〒710-0833 岡山県倉敷市西中新田640番地
防災危機管理センター2階
倉敷市消防局ウェブサイト
<https://www.city.kurashiki.okayama.jp/fire119/>



明るい明日のために

動画 Director：片岡正太／Account Planner：湯浅まりこ

Let's Go

設置してください今すぐに

尊い命を失う前に

住宅用火災警報器

みんなの家庭の守り人

住宅用火災警報器

これ以上増やさない家庭の火事を

住宅用火災警報器

みんなの家庭の守り人

住宅用火災警報器

これ以上増やさない悲しみを



倉敷市消防局
公式 YouTube

住警器ラップ

https://www.youtube.com/watch?v=I9_tpvIVSf0



住促P委
委員長

ラップ調で訴えかける住警器の設置。「尊い命」や「悲しみ」という言葉がダイレクトに伝わってきますよね。(^_^)プロによる動画なので、めちゃカッコ良く仕上がっていて参考になります Y0,Y0♪

過去に学ぶ

明日に備えて

Vol. 12

今回のテーマは「ショアリング」

（警防部警防課）

このコーナーでは、「安全文化の醸成と安全管理の徹底」を図ることを目的に、消火・救助・救急など過去の負傷事例を振り返り、事例からの学びについて紹介していきます。ここで紹介する内容が、皆さんの日々の活動に役立ち、プロフェッショナルとしての安全意識をさらに高める一助となることを願っています。

今回は、火災現場における焼損した木造建物へのショアリングについて紹介します。

事例紹介

大阪市内には木造住宅が多く、火災が発生すれば常に倒壊危険と隣り合わせである。火災現場における鎮圧後の活動や調査活動では、木材が焼け細り、いつ倒壊するかもわからない不安を抱えながらこれまで活動してきた。

大規模災害救助隊（BR）では、南海トラフ巨大地震や首都直下型地震など、甚大な被害が予想される大規模災害の発生が懸念される状況を受け、平成25年2月に、実際の大規模災害時に効率的かつ組織的な救助活動の推進を目的として、倒壊・座屈※した建物の安全確保および救助活動のためのショアリングマニュアルを盛り込んだ大規模災害等救助活動要領を策定した。その後、火災現場での複数の倒壊事案を踏まえ、焼損した木造建物におけるショアリングの効果的な実施の可否について検証を重ね、火災現場における鎮火作業や調査活動等の安全性向上を目的にショアリングの導入に至った。ショアリングの導入により、鎮圧後も危険な状態で残る天井や柱の倒壊リスクが軽減され、以後の活動および調査活動もより安全に実施可能となった。

※座屈：圧力が加わったときに、限度を超えた段階で急激に変形してしまう現象

ショアリング

ショアリングとは、災害で損傷し倒壊の危険がある建物に救助活動で進入する際の、さらなる倒壊による二次災害を防ぐため、外壁・天井・窓やドアなどの開口部に支柱器具を設置し、建物を安定化させる技術である。最大の目的は要救助者に加え、救助活動にあたる消防職員の安全確保である。

BRは日常的にショアリング技術向上のために訓練を重ねており、令和7年度には2件の災害現場で調査活動前に特命出場し、ショアリングを実施した事例がある。

なお、崩落防止措置を必要とする場合の出場隊はBR・本部特別高度救助隊（ASR）・遠距離大量送水システム搬送車（DB）が指令され、事案終了後（翌日の調査活動時など）は前述の3隊に加えて、司令階級の隊長が乗車する消火隊（ST）が指揮者として指令される。

支柱器具

救助用支柱器具 （レスキューサポートシステム（RSS））



本部特別高度救助隊、各特別救助隊（DRを除く）
及び各DBが保有

パイプサポート



本部特別高度救助隊及び港DB・東成DBが
保有

過去の学び

近年、災害がますます特殊化・複雑化する中で、安全確保には従来以上の高度な知識と技術が必要となっている。全ての状況で完全な安全確保ができるわけではないものの、ショアリングの導入によって、倒壊の危険がある環境下でも安全な活動が可能となり、消防職員の使命である安全・確実かつ迅速な要救助者救出に大きく貢献している。BRではショアリング技術の向上に絶えず取り組み、より安全性の高い現場活動を実現できるよう訓練を重ねていく。

集団災害における救急活動

はじめに

集団災害とは、多数の人々が同時に死亡もしくは負傷するような災害のことで、傷病者が多数に上り、通常の救急医療体制では対処できない場合を指します。大阪市内でも、記憶に新しいところでは梅田暴走事故（平成28年、死傷者11名、うち死者1名）、北区ビル火災（令和3年、死傷者28名、うち死者27名）、私立学校で発生した熱中症（令和4年、負傷者30名）がありました。

ここでは、集団災害における救急活動の基礎知識をご紹介します。

救急現場でのトリアージについて

トリアージとは、「傷病者の振り分け」を意味します。災害時において、限られた人的・物的資源を最大限に活用し、最大多数の傷病者に最善の医療を提供するため、重症度・緊急度を迅速に評価し、救出、現場治療、搬送などの優先順位を決定するものです。

優先順位が高い順に、赤（区分Ⅰ）、黄（区分Ⅱ）、緑（区分Ⅲ）、黒（区分0）の4つに振り分け、

- 害の状況に応じ「状況報告」「医療機関への受入要請」又は「DMAT派遣」のいずれかの項目を登録します。これを受けた災害拠点病院又は救急告示病院が、重症度別の受け入れ可能人数を入力することにより、災害現場で各医療機関の受け入れ可能人数を把握することができます。
- *ポイント*
- エリア災害登録は、現場からの依頼を受けて、大阪市では指令情報センターが行います。
- 病院からの返答には時間がかかるため、「受入要請」はできるだけ早く！

【例】火災が発生し6名が負傷
区分Ⅰ（赤）：3名 区分Ⅱ（黄）：2名 区分Ⅲ（緑）：1名
火災第1出場＋火災応急救護ユニット

救急中隊長等は、現場傷病者情報及びエリア災害登録「受入要請」の情報により、各救急隊に搬送連絡実施医療機関を指示する。



「A救急隊は〇〇救命センターに搬送連絡実施」
「B救急隊は△△総合病院に搬送連絡実施」



救急中隊長等が医療機関情報を一元化できるため、効率的な医療機関選定・早期搬送が可能となる。

エリア災害登録による現場のイメージ

このユニット出場を作るきっかけになったのは、令和3年12月17日に発生した北区曽根崎新地ビル火災でした。本火災での救急隊の出場は、ピストン出場も含めて合計38台にも上りましたが、通常の火災第1出場は救急隊1隊のみであるため、その初動は非常に厳しいものでした。

このように、傷病者が多数発生すると、救急中隊長や3T・Sの追加、さらに傷病者数に応じた救急隊の増強が必要となります。そこで、初期段階から救急体制を強化し、必要な増強要請が簡易に行えるよう新たに作られたのが、この火災応急救護ユニットです。

火災応急救護ユニットとは

火災現場で多数の傷病者が発生する可能性を想定し、初期段階から十分な救急体制を確保するために編成される出場計画が、「火災応急救護ユニット」です（令和7年10月1日から運用開始）。以前の火災出場では、傷病者数に応じて救急隊を増強する体制をとっていました。しかし、この体制では傷病者が多数発生した際に、救急隊が劣勢な状況から活動を開始することになるという問題点がありました。

- *1次トリアージ記入箇所・完成形*
- 1次トリアージでは黒塗項目の記入は必要なし。記入箇所を把握し、迅速・簡潔に記入する。
- 3枚複写のため、記入時の筆圧を強くする。
- 追記できるように記入は上詰め。
- わかりやすく端的に。特記事項欄は〇×で記入。

(収容医療機関用)		大阪市消防局	
No A13-1	氏名 (Name)	年齢 (Age) 20	性別 (Sex) 男 (M) 女 (F)
住 所 (Address)		電 話 (Phone)	
トリアージ実施月日・時刻 ① 10月 1日 AM 9:00		トリアージ実施者名 ① 消防 太郎	
搬送機関名		収容医療機関名	
トリアージ実施場所 ① トリアージポスト		トリアージ区分 0 Ⅰ Ⅱ Ⅲ	
トリアージ実施機関 ① 本部 A		医 師 救急救命士 そ の 他	
症状・傷病名			
特記事項 歩: x A: O B: O C: x D: :		JCS: 呼吸数: 回数 / 分 A: O 脈拍数: / 分 B: O 血圧: SpO2: % C: x 体温: °C D: :	
救出隊: 救出場所:		救出隊: 北 BR 救出場所: 建物2階	

エリア災害登録とは

エリア災害登録は、大阪府救急・災害医療情報システムの機能の一つで、災害拠点病院又は救急告示病院に対し、発生した災害の状況及び受入要請等を、救急隊保有の端末に通知するものです。

エリア災害（地域で対応可能な局地的災害）が発生すると、まずは当該システムにおいて、災

(イ) 集団災害第2レベル

火災応急救護ユニット2

隊名	救急	支援
車種	A	DB ST.STR
出場台数	17 ※1	1 2 ※2

- ※1 救急の内訳は、任務別の中隊長が乗り込む隊1隊、本部救急隊1隊、3T's 5隊（トリアージ2隊、トリートメント2隊、トランスポート1隊）及び搬送隊（ア）5隊、（イ）10隊、（ウ）20隊。
- ※2 原則DBと同一署所のST、STRを優先とする。

(ア) 集団災害第1レベル

火災応急救護ユニット1

隊名	救急	支援
車種	A	DB ST.STR
出場台数	12 ※1	1 2 ※2

(ウ) 集団災害第3レベル

火災応急救護ユニット3

隊名	救急	支援
車種	A	DB ST.STR
出場台数	27 ※1	1 2 ※2

集団災害レベルによる火災応急救護ユニット

おわりに

集団災害の現場で安全かつ迅速に傷病者を助けるためには、救急に関わる全員が、集団災害に対する知識をこれまで以上に身に付ける必要があると思います。平時の活動に加えて、今一度、集団災害の救急現場についての学びを深め、共に大阪市の安全安心を守っていきましょう。

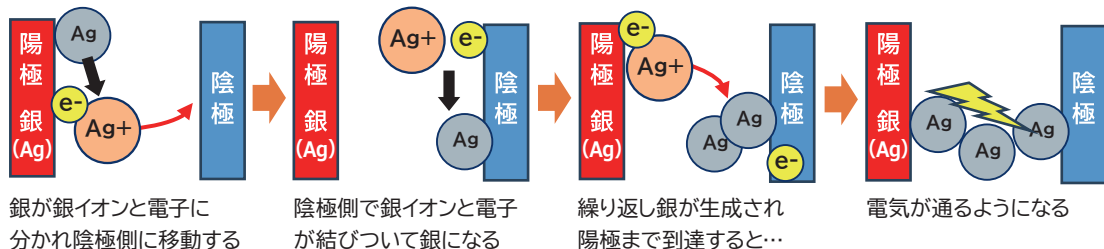


金属がイオン化する(電気を帯びる)条件について説明するよ。下図は、イオン化した金属がイオンマイグレーションになるメカニズムで、今回は、銀(Ag)のイオン化を例にして説明するよ。

金属がイオン化する条件

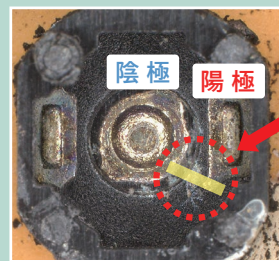
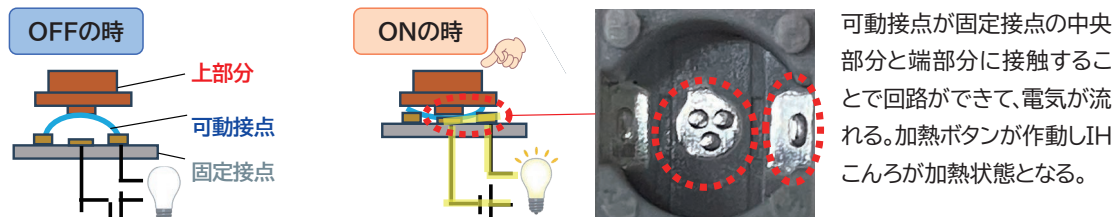
- ・湿度が高い環境
- ・電気が印加された状態

銀(陽極)が湿度が高い環境で印加状態になると、電子を放出して銀イオン(Ag+)になります。すると陰極側に向かって銀イオンが移動し、陰極側で電子と反応し、再び銀に戻ります。それが繰り返されると陰極側から陽極側に銀が伸びていき、陽極側まで到達すると、陽極側と陰極側が繋がってショート(短絡)するよ。



今回起きた火災はスイッチ部分にイオンマイグレーションが起きた?

IHこんろの加熱ボタンには「タクトスイッチ」が使用されていた。



今回焼損したIHの固定接点では、陽極と陰極の間にイオンマイグレーションが起っていた。ここに回路が形成され、電気が流れる状態となる。トラッキング火災の炭化導電路の形成によく似ている。

加熱ボタンを押さなくても、IHこんろが加熱状態となる。

結果

湿度が高く印加された状態で長期間使用したため、IHこんろのタクトスイッチ部分でイオンマイグレーションにより接点のショートが発生、スイッチが勝手に入り出火に至った可能性が高い。

今回のようにスイッチが勝手に「入り」になったと疑われる場合は、スイッチ部分などのイオンマイグレーションを考慮し、テスターで陽極と陰極の導通を確認! 金属が生成されているかの確認にあつては、調査鑑識にご相談ください!

次号は、近年全国的にも火災が増えている「モバイルバッテリー」について説明するよ!

Vol.43

IH こんろ②



「調べて、広めて、市民を守る。」



今回は前月号に引き続き、さらに詳しくIHこんろの話をするよ。見逃した人は、2月号をぜひみてね!

こまつちゃん



火災事例 火災発生時、出火室は長時間無人であり、部屋で猫を飼っていた。

留守中のペットがこんろの電源を点けてしまい、火災になる事例もあったが、立証は難しい…。

この事例は、こんろの加熱スイッチ及び揚物スイッチの接点にイオンマイグレーションの形跡があり、折出した銀により接点に「入り回路」が形成されたため、意図せずスイッチが入り、出火した可能性が高いという結果になったよ!

イオンマイグレーションとは直流電圧が印加された金属電極に水分が付着すると陽極の金属がイオン化して陰極側に移動し、金属デンドライトを形成し、そこに電流が流れて発熱する。この現象をイオンマイグレーションという。

印加: 電源コードがコンセントに接続され電圧がかかった状態のこと

学校の授業で「電子」という言葉を聞いたことがあるかな?

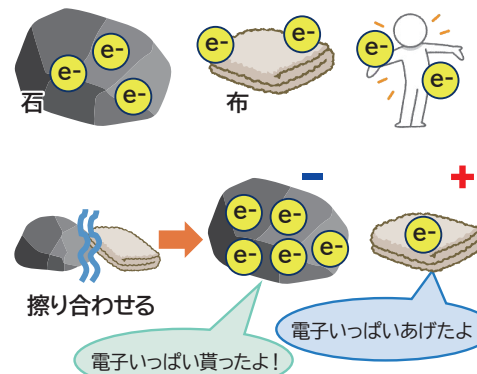


聞いたことはあるのですが、覚えてないです…。

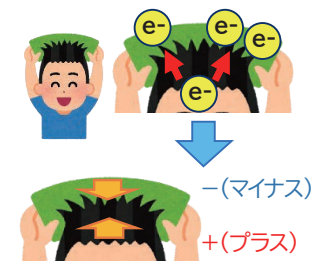


電ちゃん

じゃあまず、電子について説明するよ!



昔、下敷きを頭に擦って髪の毛を逆立てて遊んだりしなかったかな? あれは、下敷きと頭を擦って電子が髪の毛から下敷きへ移動し、電子を失った髪の毛がプラスに、電子を受け取った下敷きがマイナスになることで、プラスとマイナスが引き合って髪の毛が逆立つんだ! 電子の移動でプラスやマイナスになることをイオン化というよ!



髪の毛や下敷きだけでなく、ある条件で金属もイオン化するんだ!



第4小隊

チームビルディング
の実践

訓練呼集

訓練呼集！訓練呼集！火災出場！第1出場！
発生場所は、大東市平野屋1丁目4番1号！
大阪府立消防学校、燃焼棟より出火！集結場所は燃焼棟前とする！以上！



出場トーンで駆け出す学生



現場外套着装中！



着装し集結場所へダッシュ！



教官から着装状況のチェック！



担当教官からの講評

119期生は、入校してから約3カ月が経過し、座学・訓練ともに内容がより複合的な段階へと進んでいます。集合写真は入校当時のものですが、スローガンの言葉とともに、学生たちは日々成長を続けています。卒業する頃には顔つきも変わり、成長した姿を期待します。

さて、消防学校では、災害現場出場時の迅速性に対応力を養うことを目的として、訓練呼集を実施しています。

授業及び訓練の開始前後にトーンが鳴動し、音声指令が流れます。音声指令には、災害現場の住所や集結場所などが含まれており、学生は指令に耳を傾けながら、迅速に集結場所に向かいます。集結後は、各教官により到着時間、着装状況、指令内容の理解状況についての確認が行われます。

所属配属後、少しでも余裕をもって出場できるよう、引き続き訓練を重ねていきます。

ウィー ルーキーズ！ 大阪府立消防学校 初任教育生 月間報告



今月号は119期生入校当初の姿と、訓練呼集を実施した際の学生たちの様子をお届けします。

以下は各小隊教官が掲げたスローガンの言葉と学生たちの写真です。

第1小隊

謙虚に学ぶ



第2小隊

一笑懸命に生き
一笑懸命に笑え

第3小隊

理想を持ち
計画を実行せよ



No more! 事故

～撲滅への道～

119番通報を受けた際、安全かつ迅速に出場することで、いち早く災害現場へ駆けつける消防車両。

消防車両は、安全に現場へ到着してこそ、最大限の活動が実施できます。このコーナーでは、各署で実施している交通事故防止への様々な取組や対策を紹介していきます。

今月は、鶴見消防署の取組について紹介します。

鶴見区の通行ポイント

鶴見区は大阪市の最東部に位置し、主要な幹線道路と住宅街が混在するエリアです。区内には、京都方面と大阪市を結ぶ国道163号線と、奈良方面と大阪市を結ぶ大阪・生駒線が走っており、それぞれ東西方向の主要な道路です。南北方向には中央環状線が走っており、この中央環状線により、吹田方面や堺方面への移動がしやすくなっているため、大型車両が多く通行しています。特に、朝夕の通勤時間帯は交通量が増加し、道路が渋滞しやすい状況のため、災害発生時などに緊急出場する場合は、渋滞を考慮した最適な経路を選択することが重要です。さらに、鶴見区内には広大な鶴見緑地や大型商業施設があり、週末やイベント開催時には、人や車の出入りが増えるため、交通の混雑が起こりやすくなっています。また、住宅街では、日常的に歩行者や自転車が多く、署外活動時や災害出場時には細心の注意が求められます。

区内東側の鶴見区と東大阪市の境界近くにある、JR徳庵駅周辺には道幅の狭い道路が多く存在するため、普段から災害時の出場経路について話し合っておくことが大切です。



週末など周辺で交通の混雑が起こりやすい鶴見緑地



道幅の狭い道路が多いJR徳庵駅周辺

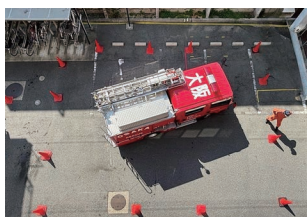
鶴見消防署の取組

交通事故防止への取組

鶴見消防署では交通事故防止に向けて様々な取組を進めています。機関員養成計画対象者の実技訓練では、署庭に特設されたコースでのL字型やクランク型の走行訓練、さらに「たこつぼ訓練」と呼ばれる狭い場所での方向転換訓練も実施しています。これにより、消防車両を安全かつ確実に操作できる技術を身につけています。

さらに署外の走行訓練では、実災害時の緊急走行を想定して、ANSINの訓練モードを活用しています。このモードでは、出場トーンを鳴動させることができ、災害点、災害種別、任務や指定消火栓などの設定が可能のため、緊張感をもって実際の災害出場に近い状況で走行訓練ができ、実際の災害出場時の落ち着いた対応に繋がっています。

また、鶴見区内には道幅が狭い道路が多く、迂回が必要となる場所もあります。そのため、走行訓練のルートにこれらの地域を取り入れることで、交通環境に関する理解を深めています。また、全乗組員が地域の特性を共有し、走行中に状況に応じて声や合図で注意を喚起する「コメントリードライブ」や下車誘導を徹底することで、交通事故防止を図っています。これらの継続的な訓練や意識の共有が、交通事故防止意識の向上に役立っています。



署庭での「たこつぼ訓練」
(訓練コースは、一辺の長さが実施車両の車長の1.5倍の正方形)

無事故チャレンジ達成日数(令和8年1月末)

北	都島	福島	此花	中央	西	港	大正	天王寺	浪速
88	112	146	177	171	1,012	747	408	85	5
西淀川	淀川	東淀川	東成	生野	旭	城東	鶴見	阿倍野	住之江
292	9	38	281	167	7	118	76	49	220
住吉	東住吉	平野	西成	水上					
468	101	11	22	743					



鶴見消防署のメンバー

この車、動かす時、気を付けて

鶴見消防署には、RW29(特殊災害対応自動車)が配備されており、特殊災害などの指令が出た際に、梯子隊の隊員2名が乗り換えて運用します。この車両は車長が8,89m、車幅が2,48m、車高は3,52mです。ST車両やR車両と比べて、死角や内輪差、オーバーハングも大きいので、車両の特徴をしっかりと理解して安全運転することが重要です。特に、運転席から後輪の位置が全く見えないので、右左折時には通常の車両よりも慎重な安全確認が必要です。

RW29は大阪市内全域に出場する車両のため、機関員は、市内の道幅の狭い場所や、高さ制限が設けられている高架、渋滞しやすい場所などをよく把握し、災害出場時に最適な経路を選ぶように日頃から準備しています。また、定期的に走行訓練を実施しており、小隊長と機関員が息の合った連携を取れるよう心がけています。

また、車両後退時は、他隊の協力を得て、誘導員を車両の四隅に配置し、警笛や携帯無線機、拡声器を利用してお互いに注意を促しながら、接触事故など起こらないよう最大限の安全対策を行っています。



RW29(特殊災害対応自動車)

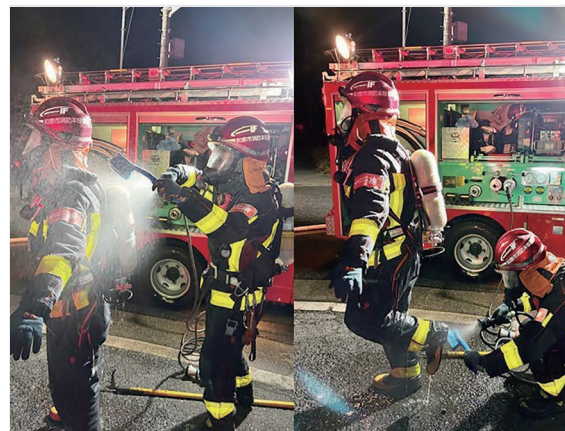
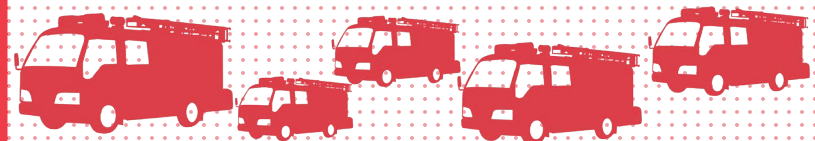


署外での走行訓練に活用する訓練モードの「ANSIN」

企画課服務指導からのコメント

鶴見消防署の取組は、幅員の狭い道路や歩行者等が多い場所など管内の道路事情を確認し危険箇所を把握することで安全な運行に繋がっており、さらに、ANSINの訓練モードを使用した走行訓練は、任務や水利を意識した走行経路を検討することができ、緊急出場時の安全な運行に繋がるものと考えます。また、任務の特性上、大阪市内全域に出場する可能性がある大型特殊車両の安全かつ迅速な走行に向けて、管内だけでなく市内の主要道路や高さ制限のある箇所を把握し、事前準備しておくことは非常に有効と言えます。今後もこうした取組を引き続き実施していただきたいと考えています。

大阪の消防 NEWS



和泉市消防本部

火災後除染について

和泉市消防本部では、火災現場での活動後における『火災後除染』に積極的に取り組んでいます。消防士は、火災により発生する発がん性物質を体内に吸収してしまう機会が多く、がん発症リスクが高い職種とされています。近年では、こうした健康被害の防止に加え、隊員や庁舎への二次汚染を防ぐ観点からも、火災後除染の重要性が国内外で指摘されています。

こうした背景を踏まえ、本部では、火災後除染の導入に向け、隊員の理解と知識の向上を目的として、ガデリウス・インダストリー株式会社の協力を得て、研修を実施し、火災後除染の重要性や、考え方、具体的な手法について学びました。

その後、令和7年6月にガイドラインを策定し、火災現場の活動後に火災除染キット（ミラブルMR1等）を使用した隊員の除染を実践しています。

今後も、災害現場での活動中の安全確保はもとより、活動後の隊員の健康管理にも目を向け、隊員と家族の安全を守っていきます。



島本町消防本部

高槻市島本町消防指令センター完成式を挙行了しました

令和7年10月7日(火)、高槻市島本町消防指令センター完成式を挙行了いたしました。

消防指令センターの整備につきましては、高槻市と島本町の両議会をはじめ、関係各位のご理解とご協力を賜りながら、協議会を設置し、両市町が共同で進めてまいりました。

完成式は高槻市長、島本町長の挨拶に始まり、両議会議長から祝辞をいただいた後、両消防長も参加しテープカットを執り行いました。その後、センターの施設見学とデモンストレーションを実施し、実際に指令画面の操作や通信の流れを見学していただきました。

近年ますます激甚化、頻発化しております自然災害をはじめ、複雑多様化する災害に対し、この消防指令センターを最大限活用するとともに、消防指令事務の共同運用による効果を十分発揮し、住民の皆さんの負託にお応えできるよう、消防職員一丸となって、消防力の向上に取り組んでまいります。